

(様式3)

自己評価結果票 (Aユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	最後の住居として、個別ケア・ターミナルケアまで受け入れることを運営の方針・理念としている	地域の中の住民のひとりとして自治会活動に参加し施設のサービス内容を知ってもらいたい
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者が会議等で職員に説明している。ケースカンファレンスで状態が変化したときに、常にターミナルを考えて介護の方法について話し合っている	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族様には入居時にホームの理念を説明し理解が得られるように努めている、玄関に理念を掲示している	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	毎週の散歩で近所の人に挨拶や庭の花を見て会話を交わせるようになり、庭の花を頂いたりすようになった	ホームで行なっている音楽療法に地域の高齢者に参加してもらうことを考えている
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議等で地域の催し物を教えてもらいできるだけ参加する	自治会主催のお花見・盆踊りに参加している

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	特に無		近所のゴミ拾いから
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者・管理者は評価をもとに、職員と会議の中で改善すべき点を話し合い実行可能なところから進めている		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中でホームで出来ることを報告し意見を聞いていろいろ教えてもらっている。最近の地域での行事や催し物を教えてもらい、参加している。		
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区の福祉課に行き、利用者の散歩時のボランティアの依頼や、他の相談に行っている		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	月1回の会議の中で成年後見人制度について勉強会し制度内容を理解し、必要な人に提供できるようにしている		地域福祉権利擁護事業についての勉強会の実施
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について会議等で話をし周知している、力まかせの動作をしないことや、言葉使いに注意するように心がけている		各リーダーが常に職員の言動について注意を払い、間違っている場合はその場で改善させている

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に良く内容を説明している、特に医療面や退去時の条件について詳しく内容を話している</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者からの苦情や要望は積極的に受け入れている、運営推進会議の参加で自由に発言してもらっている</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族様の面会時に日常生活についての説明や、身体変化の都度に電話で報告をしている、また金銭面はお預りしている生活費は面会時に確認してもらいサインをもらっている、職員の移動は家族様の来所時に移動の挨拶をしている</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族様からの苦情や要望は積極的に受け入れている、契約書に苦情の外部連絡先を掲載していることを説明している、運営推進会議の参加で自由に発言してもらっている</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員会議やリーダー会議等で意見や要望は常に聞き、解決できるようにしている</p>	フロアごとに職員同士での話し合う機会をつくる
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の状況の変化によって時間延長や出勤日の変更は各リーダーから早いタイミングで要望がありその都度調整をしている</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>フロアごとの移動は定期的に行っているが、最小限の人数で移動している</p>		<p>離職はどうしても発生するので、その都度配置換えが必要になる、長く働くことが出来るように労働環境の改善を考えていきたい</p>
5.人材の育成と支援				
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>他施設の見学、認知症に関する研修等、研修後の社内の会議で報告</p>		<p>その都度研修案内があれば人選しているが、一部の職員には計画的な研修が出来ていないので、できるようにする</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>最近では他施設の見学により、いろいろな意見を聞き他ホームの良い面を取り入れている</p>		<p>同業者との交流はしたいが現在のところはそこまで出来てない、ネットワーク作りが出来ればと思っている</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員の悩みや相談は、親睦会等で解消するようにしている</p>		<p>職員で忘年会や花火大会をする、各リーダーは職員からの相談や悩みは、とにかく話を良く聞くことにしている</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>受講したい研修や講習に参加する</p>		<p>職員個々の発案や、やりたいことがなかなか実行できない、個々のやりたいことをできるだけ実現できるように時間調整をしていきたい</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居者はなかなか本当の自分をだすことはないの で、こちらからの声掛けを常に心がけ、不安を取り 除くことを心がけている</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居初期の時期は家族様にこちらから聞くことが たくさんあり、その都度話し合う機会を作っている、 そのときに質問や困っていることが無いからこちら から聞き出すようにしている</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談を受けたときは利用者の状態を考え希望に添 えるように支援している</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>個人によって対応は違うが、基本にしているのは 常にこちらから話しかけ今出切る事、出来ないこ とを見極めをして徐々に共同作業に参加してもら い他の利用者に馴染んでもらうようにしている</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者から生活全般の知恵や料理、掃除、いろいろ な経験談を聞きながら共感し、同じ時間を過ごす ことで関係を築いている</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	利用者を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	家族の訪問時に、利用者と家族が過ごされた後に話の内容を教えてもらい、要望が無いが常に情報を共有している		
29	利用者と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	敬老会やクリスマス会等で食事やゲーム、カラオケで同じ時間を過ごす場の提供をしている		他にも家族参加で利用者と一緒に過ごせる催し物を計画したい
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	家族、友人、知人の訪問や連絡は常に支援している。元の住み慣れた家や場所への訪問は家族にお願いしている		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	毎朝のラジオ体操、リハビリ体操、音楽療法等一つのフロアに利用者全員が集合して行うため、その場で関わり合いをもつ時間を作っている		利用者同士が居室を訪問して雑談をしたり、お茶を一緒に飲んだりしている
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	いつでも帰ってきてもらってよいことを、家族に話している		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>いろいろな行事の参加は利用者の意思を尊重している、利用者と良く話をしてその中から希望や要望を読み取り、それぞれに対応している</p>	<p>話をする時間や回数を増やす</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>利用者情報を元に把握している</p>	<p>それぞれの利用者にあった馴染みの作業をする機会を作っている</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>それぞれの利用者はナースによる身体チェックや生活記録、申し送り日誌等で把握している</p>	
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>アセスメント、日々の生活記録、介護職、看護職等の意見をふまえ、利用者や家族、担当職員と相談して作成している</p>	<p>利用者本位の視点に立った介護計画がチームでできるように、センター方式を導入したい</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的な見直し（半年）と状態の変化に応じた担当者会議等を開きその都度作成している</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者ごとに個別のファイルを作成し生活記録・支援経過の記録をし、アセスメント等で情報を共有している		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療面や介護用品の購入支援、介護タクシーの手配をしている		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアによる散歩、朗読や避難訓練、自治会の花祭りの参加等		
41	他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	家族様とは利用者の身体状況の変化のある度に協議をし必要な時期に、特養への申し込みを併用している		
42	地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議での参加でいろいろな情報を提供してもらっている		今後必要に応じて協力し合うようお願いする

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居後も以前の主治医に受診を希望されている家族は継続し情報提供をしてもらい、利用者の身体状況の変化に応じて、家族と相談の上でホームの提携医に変更してもらっている</p>	
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>必要に応じて家族と看護師が相談し専門医に受診できるように支援している</p>	<p>職員が利用者をよく観察し状態変化を、早期に見つけ出し看護師に報告する</p>
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>往診医と看護師そして家族それぞれが常に同じ情報を共有し医療面を支援している</p>	
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>病院側と常に連絡を取り以前の生活情報を知らせ入院生活がスムーズに過ごせるようにし、経過連絡もいただいている</p>	
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>ホームの方針でもあるので職員は常に頭においている、家族、主治医、利用者全ての条件が整ったときにターミナルケアを行なっている</p>	
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>実践している</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>家族と利用者から生活情報を活用し利用者の馴染みの物を出るだけ持ち込むようにし、環境を整えるようにしている</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>一人ひとりの人権を考え常に思いやりのある声掛けをし、利用者の意思を優先するようにしている。居室の鍵は利用者本人が管理している</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>共同作業や日常の動作でも利用者の意思を尊重させている、時間をかけて納得すれば行なうようにしている、衣類の選択も利用者が好きなものを選び、その着替えを援助している</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>トイレ誘導や入浴を嫌がる利用者には時間を分けてこまめに声掛けをして利用者が納得するまで待つ、食事のペースもそれぞれなので、職員も時間をじっくりかけ、終わるまで待つようにしている</p>		<p>利用者の意思やペースをできるだけ守るように職員の意識を常に持つようにしている</p>
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>化粧品の購入支援や衣類をその人の体型に合うように調整したり、入浴後の鏡の前で髪を整えるようにしたり、姿見の大きな鏡の設置等</p>		<p>家族の協力で外出時に美容院に連れて行ってもらう</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付け、ランチョンマットをひいたり、食器を選んだり、盛り付けを楽しんだり、職員と共に行なっている、		入居者と一緒に作りながら食事ができるメニュー、流し素麺、綿菓子、ホットケーキなどを取り入れたい
55	利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者が望む飲食物は購入したり家族が持ち込んだりできる		タバコは館内は禁煙、家族の持ち込みの飲食物はお帰りの時に残りを預り、利用者には分けてだしている
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者のそれぞれのパターンにあわせておむつの使用方法を考え、トイレ誘導や声掛けを時間を決めて行なっている、		便器でうまく出来ない利用者に対して常に声掛けをし、気持ちよく便器で出来るように持っていくたい
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を嫌がる利用者に対して本人が入りたいときに合わせて入浴してもらう		これも常に声掛けが必要で入浴が気持ちがいいことや楽しい事を利用者にきずいてもらうようにしている、お湯の入れ替えなど
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	布団干しやシーツ交換、就寝時間を知らせるようにしているが、基本的には利用者が寝る時間を決めている、		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	音楽療法、健康体操、スポーツ好きの人や踊り好きの人、それぞれに合わせた遊びをしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と一緒に買い物に出かけて品物を選びレジでお金を支払うところまで支援している		品物を選ぶことやお金を支払うことにためらいやもったいないが自分の中にあり、なかなか決められないでいる、不安を取り除いたり、買い物が楽しみになるように支援したい
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	家族の協力で外食・外出、職員と一緒にの買い物、近所のホームセンターへの見学		個人の希望する買い物、喫茶店に行く、レストランで食事等計画的な外出をする
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の協力で外食・外出、職員と一緒にの買い物、近所のホームセンターへ見学		映画、海、商店街への外出を計画する
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分で電話が出来る人は事務所でかけてもらっている、出来ない人で希望される人は職員が手助けをしてしている		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、友人、知人など、それぞれ来客があり時には職員も一緒に話し込むこともある		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないことを前提に職員は身体的に低下した利用者や精神的に不安定な利用者の要望を出来るだけかなえてあげることや、転倒防止のために生活環境をその人に合わせて変更して支援している		利用者の身体状況や精神状態を常に観察し早い時期に対応が出来るようにしている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関は日中は鍵をかけたことはありません、エレベータも自由に乗り降りでき各フロアも自由に行き来できる、		フロアごとの移動者の連絡をみつに取り合うことや、徘徊のある利用者にはセンサーを持たせている
67	利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者の居室に入るときは必ずノックをして入るようにしている、職員同士や各フロア間で利用者の居場所を確認のため連絡を取り合っている		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	職員は居室の掃除の時などに、さりげなく危険物がないかチェックし、もし発見すれば家族の同意の上で回収している。共同で使用するもので危険なものは職員と一緒に使用したりする		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員の見守りや歩行器、手押し車の補助具の使用、嚥下困難な人に対して食事介助に一人付いて行なう、家族持込の飲食物のチェック、徘徊防止センサーの導入、看護師による勉強会		実際の場面になると手順どおりになかなか出来ないときもあるので、勉強会を継続する
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	初期対応のは各フロアに掲示している職員も周知している、応急処置は看護師の指示で行なっている		夜間は日中から要注意の利用者に対する急変時の対応を看護師より申し送りしている
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を年2回の実施、消防署に来てもらい消火器の使用方の講習		運営推進会議で災害時の協力を依頼する

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて 家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大 切にした対応策を話し合っている	家族との話し合いは常に行なっており、各利用者 の状態変化による危険な要因を排除するようし ている		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に 努め、気づいた際には速やかに情報を共有 し、対応に結び付けている	毎日定期的なバイタルチェックを行なっている、 入浴時の身体チェック、日常生活の動作の変化が あるかチェックする等で早い対応をする		
74	服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副 作用、用法や用量について理解しており、 服薬の支援と症状の変化の確認に努めてい る	看護師が各職員に薬の説明をその都度行なってい る、利用者からの訴えを看護師に報告し薬が合っ ているかどうかのチェック、職員による服薬 チェック		
75	便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防 と対応のための飲食物の工夫や身体を動か す働きかけ等に取り組んでいる	水分量と食事量の記録をとり便秘の予防をする、 排泄物のチェックや温湿布、マッサージ、運動量 の調整で排泄を促す		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないように、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じ た支援をしている	毎食後の口腔内の清掃、夜間義歯の熱湯消毒、舌 の清掃やうがい、生きている歯のチェックを職員 が行なう		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日 を通じて確保できるよう、一人ひとりの状 態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量と食事量を記録し各利用者の摂取量を管理 し必要な量確保できるようにしている、スプーン やホークの補助具の使用、嚥下困難な人にとろみ をつけたり、ミキサー食、ラコール摂取等を行 なっている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを設置、それにそって実行している		外からの訪問者は全員手洗い・うがいを実行する
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材の管理はチェック表で、特に温度管理に注意している、台所用品の使用後は除菌・漂白を行っている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りは季節の花やディスプレイを置いている、庭には畑や花壇		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いリビング、大きな窓、畳コーナーやダイニングテーブルを囲んでお茶を飲んだり、会話を楽しんだりして過ごせるようにしている		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやついたてを置き簡易的な目隠しになるようにしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や装飾品、仏壇などを持ち込み安心して過ごせるようにしている		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	リビングや各居室は毎日換気をしている、エアコンの温度管理は職員がその都度気温にあわせて行なっている		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床面はフルフラットで車椅子がどこでも移動できるようになっている、手すりは要所に設置している		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	職員は日々の中で利用者が、出ること出来ないことを見極めさりげなく支援し、出来たことは一緒に喜び合うようにしている		
87	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に花壇や日向ぼっこを楽しむために椅子やパラソルを置いている、また畑で野菜を植えて収穫を楽しむ		

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(様式3)

自己評価結果票 (Bユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	最後の住居として、個別ケア・ターミナルケアまで受け入れることを運営の方針・理念としている	地域の中の住民のひとりとして自治会活動に参加し施設のサービス内容を知ってもらいたい
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者が会議等で職員に説明している。ケースカンファレンスで状態が変化したときに、常にターミナルを考えて介護の方法について話し合っている	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族様には入居時にホームの理念を説明し理解が得られるように努めている、玄関に理念を掲示している	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	毎週の散歩で近所の人に挨拶や庭の花を見て会話を交わせるようになり、庭の花を頂いたりすようになった	ホームで行なっている音楽療法に地域の高齢者に参加してもらうことを考えている
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議等で地域の催し物を教えてもらいできるだけ参加する	自治会主催のお花見・盆踊りに参加している

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	特に無		近所のゴミ拾いから
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者・管理者は評価をもとに、職員と会議の中で改善すべき点を話し合い実行可能なところから進めている		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中でホームで出来ることを報告し意見を聞いていろいろ教えてもらっている。最近の地域での行事や催し物を教えてもらい、参加している。		
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区の福祉課に行き、利用者の散歩時のボランティアの依頼や、他の相談に行っている		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	月1回の会議の中で成年後見人制度について勉強会し制度内容を理解し、必要な人に提供できるようにしている		地域福祉権利擁護事業についての勉強会の実施
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について会議等で話をし周知している、力まかせの動作をしないことや、言葉使いに注意するように心がけている		各リーダーが常に職員の言動について注意を払い、間違っている場合はその場で改善させている

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に良く内容を説明している、特に医療面や退去時の条件について詳しく内容を話している</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者からの苦情や要望は積極的に受け入れている、運営推進会議の参加で自由に発言してもらっている</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族様の面会時に日常生活についての説明や、身体変化の都度に電話で報告をしている、また金銭面はお預りしている生活費は面会時に確認してもらいサインをもらっている、職員の移動は家族様の来所時に移動の挨拶をしている</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族様からの苦情や要望は積極的に受け入れている、契約書に苦情の外部連絡先を掲載していることを説明している、運営推進会議の参加で自由に発言してもらっている</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員会議やリーダー会議等で意見や要望は常に聞き、解決できるようにしている</p>	フロアごとに職員同士での話し合う機会をつくる
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の状況の変化によって時間延長や出勤日の変更は各リーダーから早いタイミングで要望がありその都度調整をしている</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	フロアごとの移動は定期的に行っているが、最小限の人数で移動している		離職はどうしても発生するので、その都度配置換えが必要になる、長く働くことが出来るように労働環境の改善を考えていきたい
5.人材の育成と支援				
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	他施設の見学、認知症に関する研修等、研修後の社内の会議で報告		その都度研修案内があれば人選しているが、一部の職員には計画的な研修が出来ていないので、できるようにする
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	最近では他施設の見学により、いろいろな意見を聞き他ホームの良い面を取り入れている		同業者との交流はしたいが現在のところはそこまで出来てない、ネットワーク作りが出来ればと思っている
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	職員の悩みや相談は、親睦会等で解消するようにしている		職員で忘年会や花火大会をする、各リーダーは職員からの相談や悩みは、とにかく話を良く聞くことにしている
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	受講したい研修や講習に参加する		職員個々の発案や、やりたいことがなかなか実行できない、個々のやりたいことをできるだけ実現できるように時間調整をしていきたい

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居者はなかなか本当の自分をだすことはないの で、こちらからの声掛けを常に心がけ、不安を取り除くことを心がけている</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居初期の時期は家族様にこちらから聞くことが たくさんあり、その都度話し合う機会を作っている、そのときに質問や困っていることが無い こちらから聞き出すようにしている</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談を受けたときは利用者の状態を考え希望に添えるように支援している</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>個人によって対応は違うが、基本にしているのは常にこちらから話しかけ今出切る事、出来ないことを見極めをして徐々に共同作業に参加してもらい他の利用者に馴染んでもらうようにしている</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者から生活全般の知恵や料理、掃除、いろいろな経験談を聞きながら共感し、同じ時間を過ごすことで関係を築いている</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	利用者を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	家族の訪問時に、利用者と家族が過ごされた後に話の内容を教えてもらい、要望が無いが常に情報を共有している		
29	利用者と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	敬老会やクリスマス会等で食事やゲーム、カラオケで同じ時間を過ごす場の提供をしている		他にも家族参加で利用者と一緒に過ごせる催し物を計画したい
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	家族、友人、知人の訪問や連絡は常に支援している。元の住み慣れた家や場所への訪問は家族にお願いしている		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	毎朝のラジオ体操、リハビリ体操、音楽療法等一つのフロアに利用者全員が集合して行うため、その場で関わり合いをもつ時間を作っている		利用者同士が居室を訪問して雑談をしたり、お茶を一緒に飲んだりしている
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	いつでも帰ってきてもらってよいことを、家族に話している		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>いろいろな行事の参加は利用者の意思を尊重している、利用者と良く話をしてその中から希望や要望を読み取り、それぞれに対応している</p>	<p>話をする時間や回数を増やす</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>利用者情報を元に把握している</p>	<p>それぞれの利用者にあった馴染みの作業をする機会を作っている</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>それぞれの利用者はナースによる身体チェックや生活記録、申し送り日誌等で把握している</p>	
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>アセスメント、日々の生活記録、介護職、看護職等の意見をふまえ、利用者や家族、担当職員と相談して作成している</p>	<p>利用者本位の視点に立った介護計画がチームでできるように、センター方式を導入したい</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的な見直し（半年）と状態の変化に応じた担当者会議等を開きその都度作成している</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者ごとに個別のファイルを作成し生活記録・支援経過の記録をし、アセスメント等で情報を共有している		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療面や介護用品の購入支援、介護タクシーの手配をしている		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアによる散歩、朗読や避難訓練、自治会の花祭りの参加等		
41	他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	家族様とは利用者の身体状況の変化のある度に協議をし必要な時期に、特養への申し込みを併用している		
42	地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議での参加でいろいろな情報を提供してもらっている		今後必要に応じて協力し合うようお願いする

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居後も以前の主治医に受診を希望されている家族は継続し情報提供をしてもらい、利用者の身体状況の変化に応じて、家族と相談の上でホームの提携医に変更してもらっている</p>	
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>必要に応じて家族と看護師が相談し専門医に受診できるように支援している</p>	<p>職員が利用者をよく観察し状態変化を、早期に見つけ出し看護師に報告する</p>
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>往診医と看護師そして家族それぞれが常に同じ情報を共有し医療面を支援している</p>	
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>病院側と常に連絡を取り以前の生活情報を知らせ入院生活がスムーズに過ごせるようにし、経過連絡もいただいている</p>	
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>ホームの方針でもあるので職員は常に頭においている、家族、主治医、利用者全ての条件が整ったときにターミナルケアを行なっている</p>	
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>実践している</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>家族と利用者から生活情報を活用し利用者の馴染みの物を出るだけ持ち込むようにし、環境を整えるようにしている</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>一人ひとりの人権を考え常に思いやりのある声掛けをし、利用者の意思を優先するようにしている。居室の鍵は利用者本人が管理している</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>共同作業や日常の動作でも利用者の意思を尊重させている、時間をかけて納得すれば行なうようにしている、衣類の選択も利用者が好きなものを選び、その着替えを援助している</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>トイレ誘導や入浴を嫌がる利用者には時間を分けてこまめに声掛けをして利用者が納得するまで待つ、食事のペースもそれぞれなので、職員も時間をじっくりかけ、終わるまで待つようにしている</p>		<p>利用者の意思やペースをできるだけ守るように職員の意識を常に持つようにしている</p>
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>化粧品の購入支援や衣類をその人の体型に合うように調整したり、入浴後の鏡の前で髪を整えるようにしたり、姿見の大きな鏡の設置等</p>		<p>家族の協力で外出時に美容院に連れて行ってもらう</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付け、ランチョンマットをひいたり、食器を選んだり、盛り付けを楽しんだり、職員と共に行なっている、		入居者と一緒に作りながら食事ができるメニュー、流し素麺、綿菓子、ホットケーキなどを取り入れたい
55	利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者が望む飲食物は購入したり家族が持ち込んだりできる		タバコは館内は禁煙、家族の持ち込みの飲食物はお帰りの時に残りを預り、利用者には分けてだしている
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者のそれぞれのパターンにあわせておむつの使用方法を考え、トイレ誘導や声掛けを時間を決めて行なっている、		便器でうまく出来ない利用者に対して常に声掛けをし、気持ちよく便器で出来るように持っていくたい
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を嫌がる利用者に対して本人が入りたいときに合わせて入浴してもらう		これも常に声掛けが必要で入浴が気持ちがいいことや楽しい事を利用者にきずいてもらうようにしている、お湯の入れ替えなど
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	布団干しやシーツ交換、就寝時間を知らせるようにしているが、基本的には利用者が寝る時間を決めている、		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	音楽療法、健康体操、スポーツ好きの人や踊り好きの人、それぞれに合わせた遊びをしている		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と一緒に買い物に出かけて品物を選びレジでお金を支払うところまで支援している		品物を選ぶことやお金を支払うことにためらいやもったいないが自分の中にあり、なかなか決められないでいる、不安を取り除いたり、買い物が楽しみになるように支援したい
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	家族の協力で外食・外出、職員と一緒にの買い物、近所のホームセンターへの見学		個人の希望する買い物、喫茶店に行く、レストランで食事等計画的な外出をする
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の協力で外食・外出、職員と一緒にの買い物、近所のホームセンターへ見学		映画、海、商店街への外出を計画する
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分で電話が出来る人は事務所でかけてもらっている、出来ない人で希望される人は職員が手助けをしてしている		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、友人、知人など、それぞれ来客があり時には職員も一緒に話し込むこともある		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないことを前提に職員は身体的に低下した利用者や精神的に不安定な利用者の要望を出来るだけかなえてあげることや、転倒防止のために生活環境をその人に合わせて変更して支援している		利用者の身体状況や精神状態を常に観察し早い時期に対応出来るようにしている

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		<p>フロアごとの移動者の連絡をみつに取り合うことや、徘徊のある利用者にはセンサーを持たせている</p>
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		<p>実際の場面になると手順どおりになかなか出来ないときもあるので、勉強会を継続する</p>
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		<p>夜間は日中から要注意の利用者に対する急変時の対応を看護師より申し送りしている</p>
71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		<p>運営推進会議で災害時の協力を依頼する</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて 家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大 切にした対応策を話し合っている	家族との話し合いは常に行なっており、各利用者 の状態変化による危険な要因を排除するようし ている		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に 努め、気づいた際には速やかに情報を共有 し、対応に結び付けている	毎日定期的なバイタルチェックを行なっている、 入浴時の身体チェック、日常生活の動作の変化が あるかチェックする等で早い対応をする		
74	服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副 作用、用法や用量について理解しており、 服薬の支援と症状の変化の確認に努めてい る	看護師が各職員に薬の説明をその都度行なってい る、利用者からの訴えを看護師に報告し薬が合っ ているかどうかのチェック、職員による服薬 チェック		
75	便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防 と対応のための飲食物の工夫や身体を動か す働きかけ等に取り組んでいる	水分量と食事量の記録をとり便秘の予防をする、 排泄物のチェックや温湿布、マッサージ、運動量 の調整で排泄を促す		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないように、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じ た支援をしている	毎食後の口腔内の清掃、夜間義歯の熱湯消毒、舌 の清掃やうがい、生きている歯のチェックを職員 が行なう		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状 態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量と食事量を記録し各利用者の摂取量を管理 し必要な量確保できるようにしている、スプーン やホークの補助具の使用、嚥下困難な人にとろみ をつけたり、ミキサー食、ラコール摂取等を行 なっている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを設置、それにそって実行している		外からの訪問者は全員手洗い・うがいを実行する
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材の管理はチェック表で、特に温度管理に注意している、台所用品の使用後は除菌・漂白を行っている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りは季節の花やディスプレイを置いている、庭には畑や花壇		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いリビング、大きな窓、畳コーナーやダイニングテーブルを囲んでお茶を飲んだり、会話を楽しんだりして過ごせるようにしている		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやついたてを置き簡易的な目隠しになるようにしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や装飾品、仏壇などを持ち込み安心して過ごせるようにしている		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	リビングや各居室は毎日換気をしている、エアコンの温度管理は職員がその都度気温にあわせて行なっている		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床面はフルフラットで車椅子がどこでも移動できるようになっている、手すりは要所に設置している		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	職員は日々の中で利用者が、出ること出来ないことを見極めさりげなく支援し、出来たことは一緒に喜び合うようにしている		
87	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に花壇や日向ぼっこを楽しむために椅子やパラソルを置いている、また畑で野菜を植えて収穫を楽しむ		

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(様式3)

自己評価結果票 (Cユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	最後の住居として、個別ケア・ターミナルケアまで受け入れることを運営の方針・理念としている	地域の中の住民のひとりとして自治会活動に参加し施設のサービス内容を知ってもらいたい
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者が会議等で職員に説明している。ケースカンファレンスで状態が変化したときに、常にターミナルを考えて介護の方法について話し合っている	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族様には入居時にホームの理念を説明し理解が得られるように努めている、玄関に理念を掲示している	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	毎週の散歩で近所の人に挨拶や庭の花を見て会話を交わせるようになり、庭の花を頂いたりすようになった	ホームで行なっている音楽療法に地域の高齢者に参加してもらうことを考えている
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議等で地域の催し物を教えてもらいできるだけ参加する	自治会主催のお花見・盆踊りに参加している

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	特に無		近所のゴミ拾いから
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者・管理者は評価をもとに、職員と会議の中で改善すべき点を話し合い実行可能なところから進めている		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中でホームで出来ることを報告し意見を聞いていろいろ教えてもらっている。最近の地域での行事や催し物を教えてもらい、参加している。		
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区の福祉課に行き、利用者の散歩時のボランティアの依頼や、他の相談に行っている		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	月1回の会議の中で成年後見人制度について勉強会し制度内容を理解し、必要な人に提供できるようにしている		地域福祉権利擁護事業についての勉強会の実施
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について会議等で話をし周知している、力まかせの動作をしないことや、言葉使いに注意するように心がけている		各リーダーが常に職員の言動について注意を払い、間違っている場合はその場で改善させている

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に良く内容を説明している、特に医療面や退去時の条件について詳しく内容を話している</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者からの苦情や要望は積極的に受け入れている、運営推進会議の参加で自由に発言してもらっている</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族様の面会時に日常生活についての説明や、身体変化の都度に電話で報告をしている、また金銭面はお預りしている生活費は面会時に確認してもらいサインをもらっている、職員の移動は家族様の来所時に移動の挨拶をしている</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族様からの苦情や要望は積極的に受け入れている、契約書に苦情の外部連絡先を掲載していることを説明している、運営推進会議の参加で自由に発言してもらっている</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員会議やリーダー会議等で意見や要望は常に聞き、解決できるようにしている</p>	フロアごとに職員同士での話し合う機会をつくる
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の状況の変化によって時間延長や出勤日の変更は各リーダーから早いタイミングで要望がありその都度調整をしている</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	フロアごとの移動は定期的に行っているが、最小限の人数で移動している		離職はどうしても発生するので、その都度配置換えが必要になる、長く働くことが出来るように労働環境の改善を考えていきたい
5.人材の育成と支援				
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	他施設の見学、認知症に関する研修等、研修後の社内の会議で報告		その都度研修案内があれば人選しているが、一部の職員には計画的な研修が出来ていないので、できるようにする
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	最近では他施設の見学により、いろいろな意見を聞き他ホームの良い面を取り入れている		同業者との交流はしたいが現在のところはそこまで出来てない、ネットワーク作りが出来ればと思っている
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	職員の悩みや相談は、親睦会等で解消するようにしている		職員で忘年会や花火大会をする、各リーダーは職員からの相談や悩みは、とにかく話を良く聞くことにしている
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	受講したい研修や講習に参加する		職員個々の発案や、やりたいことがなかなか実行できない、個々のやりたいことをできるだけ実現できるように時間調整をしていきたい

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居者はなかなか本当の自分をだすことはないの で、こちらからの声掛けを常に心がけ、不安を取り 除くことを心がけている</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居初期の時期は家族様にこちらから聞くことが たくさんあり、その都度話し合う機会を作っている、 そのときに質問や困っていることが無いからこちら から聞き出すようにしている</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談を受けたときは利用者の状態を考え希望に添 えるように支援している</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>個人によって対応は違うが、基本にしているのは 常にこちらから話しかけ今出切る事、出来ないこ とを見極めをして徐々に共同作業に参加してもら い他の利用者に馴染んでもらうようにしている</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者から生活全般の知恵や料理、掃除、いろいろ な経験談を聞きながら共感し、同じ時間を過ごす ことで関係を築いている</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	利用者を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	家族の訪問時に、利用者と家族が過ごされた後に話の内容を教えてもらい、要望が無いが常に情報を共有している		
29	利用者と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	敬老会やクリスマス会等で食事やゲーム、カラオケで同じ時間を過ごす場の提供をしている		他にも家族参加で利用者と一緒に過ごせる催し物を計画したい
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	家族、友人、知人の訪問や連絡は常に支援している。元の住み慣れた家や場所への訪問は家族にお願いしている		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	毎朝のラジオ体操、リハビリ体操、音楽療法等一つのフロアに利用者全員が集合して行うため、その場で関わり合いをもつ時間を作っている		利用者同士が居室を訪問して雑談をしたり、お茶を一緒に飲んだりしている
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	いつでも帰ってきてもらってよいことを、家族に話している		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>いろいろな行事の参加は利用者の意思を尊重している、利用者と良く話をしてその中から希望や要望を読み取り、それぞれに対応している</p>	<p>話をする時間や回数を増やす</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>利用者情報を元に把握している</p>	<p>それぞれの利用者にあった馴染みの作業をする機会を作っている</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>それぞれの利用者はナースによる身体チェックや生活記録、申し送り日誌等で把握している</p>	
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>アセスメント、日々の生活記録、介護職、看護職等の意見をふまえ、利用者や家族、担当職員と相談して作成している</p>	<p>利用者本位の視点に立った介護計画がチームでできるように、センター方式を導入したい</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的な見直し（半年）と状態の変化に応じた担当者会議等を開きその都度作成している</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者ごとに個別のファイルを作成し生活記録・支援経過の記録をし、アセスメント等で情報を共有している		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療面や介護用品の購入支援、介護タクシーの手配をしている		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアによる散歩、朗読や避難訓練、自治会の花祭りの参加等		
41	他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	家族様とは利用者の身体状況の変化のある度に協議をし必要な時期に、特養への申し込みを併用している		
42	地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議での参加でいろいろな情報を提供してもらっている		今後必要に応じて協力し合うようお願いする

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居後も以前の主治医に受診を希望されている家族は継続し情報提供をしてもらい、利用者の身体状況の変化に応じて、家族と相談の上でホームの提携医に変更してもらっている</p>	
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>必要に応じて家族と看護師が相談し専門医に受診できるように支援している</p>	<p>職員が利用者をよく観察し状態変化を、早期に見つけ出し看護師に報告する</p>
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>往診医と看護師そして家族それぞれが常に同じ情報を共有し医療面を支援している</p>	
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>病院側と常に連絡を取り以前の生活情報を知らせ入院生活がスムーズに過ごせるようにし、経過連絡もいただいている</p>	
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>ホームの方針でもあるので職員は常に頭においている、家族、主治医、利用者全ての条件が整ったときにターミナルケアを行なっている</p>	
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>実践している</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>家族と利用者から生活情報を活用し利用者の馴染みの物を出来るだけ持ち込むようにし、環境を整えるようにしている</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>一人ひとりの人権を考え常に思いやりのある声掛けをし、利用者の意思を優先するようにしている。居室の鍵は利用者本人が管理している</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>共同作業や日常の動作でも利用者の意思を尊重させている、時間をかけて納得すれば行なうようにしている、衣類の選択も利用者が好きなものを選び、その着替えを援助している</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>トイレ誘導や入浴を嫌がる利用者には時間を分けてこまめに声掛けをして利用者が納得するまで待つ、食事のペースもそれぞれなので、職員も時間をじっくりかけ、終わるまで待つようにしている</p>		<p>利用者の意思やペースをできるだけ守るように職員の意識を常に持つようにしている</p>
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>化粧品の購入支援や衣類をその人の体型に合うように調整したり、入浴後の鏡の前で髪を整えるようにしたり、姿見の大きな鏡の設置等</p>		<p>家族の協力で外出時に美容院に連れて行ってもらう</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付け、ランチョンマットをひいたり、食器を選んだり、盛り付けを楽しんだり、職員と共に行なっている、		入居者と一緒に作りながら食事ができるメニュー、流し素麺、綿菓子、ホットケーキなどを取り入れたい
55	利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者が望む飲食物は購入したり家族が持ち込んだりできる		タバコは館内は禁煙、家族の持ち込みの飲食物はお帰りの時に残りを預り、利用者には分けてだしている
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者のそれぞれのパターンにあわせておむつの使用方法を考え、トイレ誘導や声掛けを時間を決めて行なっている、		便器でうまく出来ない利用者に対して常に声掛けをし、気持ちよく便器で出来るように持っていく
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を嫌がる利用者に対して本人が入りたいときに合わせて入浴してもらう		これも常に声掛けが必要で入浴が気持ちがいいことや楽しい事を利用者にきずいてもらうようにしている、お湯の入れ替えなど
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	布団干しやシーツ交換、就寝時間を知らせるようにしているが、基本的には利用者が寝る時間を決めている、		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	音楽療法、健康体操、スポーツ好きの人や踊り好きの人、それぞれに合わせた遊びをしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と一緒に買い物に出かけて品物を選びレジでお金を支払うところまで支援している		品物を選ぶことやお金を支払うことにためらいやもったいないが自分の中にあり、なかなか決められないでいる、不安を取り除いたり、買い物が楽しみになるように支援したい
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	家族の協力で外食・外出、職員と一緒にの買い物、近所のホームセンターへの見学		個人の希望する買い物、喫茶店に行く、レストランで食事等計画的な外出をする
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の協力で外食・外出、職員と一緒にの買い物、近所のホームセンターへ見学		映画、海、商店街への外出を計画する
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分で電話が出来る人は事務所でかけてもらっている、出来ない人で希望される人は職員が手助けをしている		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、友人、知人など、それぞれ来客があり時には職員も一緒に話し込むこともある		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないことを前提に職員は身体的に低下した利用者や精神的に不安定な利用者の要望を出来るだけかなえてあげることや、転倒防止のために生活環境をその人に合わせて変更して支援している		利用者の身体状況や精神状態を常に観察し早い時期に対応出来るようにしている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関は日中は鍵をかけたことはありません、エレベータも自由に乗り降りでき各フロアも自由に行き来できる、		フロアごとの移動者の連絡をみつに取り合うことや、徘徊のある利用者にはセンサーを持たせている
67	利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者の居室に入るときは必ずノックをして入るようにしている、職員同士や各フロア間で利用者の居場所を確認のため連絡を取り合っている		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	職員は居室の掃除の時などに、さりげなく危険物がないかチェックし、もし発見すれば家族の同意の上で回収している。共同で使用するもので危険なものは職員と一緒に使用したりする		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員の見守りや歩行器、手押し車の補助具の使用、嚥下困難な人に対して食事介助に一人付いて行なう、家族持込の飲食物のチェック、徘徊防止センサーの導入、看護師による勉強会		実際の場面になると手順どおりになかなか出来ないときもあるので、勉強会を継続する
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	初期対応のは各フロアに掲示している職員も周知している、応急処置は看護師の指示で行なっている		夜間は日中から要注意の利用者に対する急変時の対応を看護師より申し送りしている
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を年2回の実施、消防署に来てもらい消火器の使用方の講習		運営推進会議で災害時の協力を依頼する

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて 家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大 切にした対応策を話し合っている	家族との話し合いは常に行なっており、各利用者 の状態変化による危険な要因を排除するようし ている		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に 努め、気づいた際には速やかに情報を共有 し、対応に結び付けている	毎日定期的なバイタルチェックを行なっている、 入浴時の身体チェック、日常生活の動作の変化が あるかチェックする等で早い対応をする		
74	服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副 作用、用法や用量について理解しており、 服薬の支援と症状の変化の確認に努めてい る	看護師が各職員に薬の説明をその都度行なってい る、利用者からの訴えを看護師に報告し薬が合っ ているかどうかのチェック、職員による服薬 チェック		
75	便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防 と対応のための飲食物の工夫や身体を動か す働きかけ等に取り組んでいる	水分量と食事量の記録をとり便秘の予防をする、 排泄物のチェックや温湿布、マッサージ、運動量 の調整で排泄を促す		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じ た支援をしている	毎食後の口腔内の清掃、夜間義歯の熱湯消毒、舌 の清掃やうがい、生きている歯のチェックを職員 が行なう		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状 態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量と食事量を記録し各利用者の摂取量を管理 し必要な量確保できるようにしている、スプーン やホークの補助具の使用、嚥下困難な人にとろみ をつけたり、ミキサー食、ラコール摂取等を行 なっている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを設置、それにそって実行している		外からの訪問者は全員手洗い・うがいを実行する
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材の管理はチェック表で、特に温度管理に注意している、台所用品の使用後は除菌・漂白を行っている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りは季節の花やディスプレイを置いている、庭には畑や花壇		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いリビング、大きな窓、畳コーナーやダイニングテーブルを囲んでお茶を飲んだり、会話を楽しんだりして過ごせるようにしている		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやついたてを置き簡易的な目隠しになるようにしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や装飾品、仏壇などを持ち込み安心して過ごせるようにしている		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	リビングや各居室は毎日換気をしている、エアコンの温度管理は職員がその都度気温にあわせて行なっている		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床面はフルフラットで車椅子がどこでも移動できるようになっている、手すりは要所に設置している		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	職員は日々の中で利用者が、出ること出来ないことを見極めさりげなく支援し、出来たことは一緒に喜び合うようにしている		
87	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に花壇や日向ぼっこを楽しむために椅子やパラソルを置いている、また畑で野菜を植えて収穫を楽しむ		

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)